

時節を待つ 人生に小波乱は付き物である。逆境に陥った場合、それに漫然と対処するのではなく、その由って来る所以^{ゆえん}を考えねばならない。渋沢栄一は、「それが人為的逆境か自然的逆境であるかを区別し、然る後にこれに応ずる策を立てねばならぬ」（「大丈夫の試金石」『論語と算盤』）と述べている。

自然的逆境は因果の法則に基づくものであり、因果の関係は俄^{にわか}にこれを絶つことは出来ない。ある一定の時期に達するまでは人力で動かし得ないものである。この様な逆境は「大丈夫の試金石である」、「自分に必要な試練を天が与えてくれたのであり、超えられない試練はない」と覚悟することである。

その上で、足るを知って余計な望みを持たず、分を守り、決して逃げないという覚悟を固めれば、心はおのずから平らかとなる。因^{ちな}みに、逆境から逃げようとすればするほどハードルの高い逆境が訪れることを心しておくべきだろう。

因果の法則に則って現われる天の命とは、人がこれを知りもせず覺^{きよ}りもしない間に自然と行われて行くものである。天の命は百事百物の間に行われるものであると覺り、これに対する恭、敬、信をもって気長に時節の到来を待てばよい。渋沢栄一は、「天命に安んじ、おもむろに来るべき運命を待ちつつ撓^{たゆ}まず屈せず勉強するがよい」（同上）という言葉を残し、また松下幸之助も「私の感情にとらわれず、いかなる非難や屈辱にも耐え、自分の正しいと信ずる方針を貫いて、じっと時を待つ」（『指導者の条件』 p 101）が良いと語っている。

人為的な逆境に陥った場合は、自分に省みて悪い点を改めるより外はない。渋沢栄一は「世の中のことは多く自働的（注 2）のもので、自分からこうしたいああしたいと奮励さえすれば、大概はその意のごとくになるものののである」（同上）から、智を働かせ、さらなる勉強をもってすれば、人為的逆境は克服できると述べている。

注 1：常に変わらない節操。常に信念を固く守って変えないこと

注 2：自分の力で動くこと